

半導体漫遊記

163

湯之上隆

東芝メモリの分社化と売却を巡って、東芝と米ウエスタンデジタル(WD)の対立が激化している。もはやそれは、「戦争」という表現が相応しいほどの酷さである。

東芝と米WDの過激「戦争」 両社刺し違え討ち死も

東芝メモリの分社化と売却を巡って、東芝と米ウエスタンデジタル(WD)の対立が激化している。もはやそれは、「戦争」という表現が相応しいほどの酷さである。

「NAND事業の売却は契約違反」と主張するWDは5月14日、東芝のNAND事業売却差し止めを求めて、国際商業会議所(ICC)の国際仲裁裁判所に仲裁申立書を提出した。

ところが東芝は、上記の裁判などには関係なく東芝メモリを売却しようとしているため、WDは6月14日、「東芝が契約内容を侵害す

る。そしてその判決では、売却差し止めの仮処分決定が出る可能性が高いと言われている。《虚偽》であり、それを言い触らしているところを東芝は、二つ目の訴訟などはハナから無視し、6月21日「東芝の信用を棄損したことを意味する。」と主張し、さらには東芝は同日、WDに対して、不正競争行為の差止めを求め第6棟に導入する製造設備と、第6棟第2期の建設費用として、および1200億円の支払いを求め、損害賠償額約1800億円を単独で投資すると発表した。つまり東芝は、WDとの共同開発を放棄したばかりでなく、3次元NANDへの設備投資も単独で行う覚悟を決めたのだ。

WDは、三つの裁判を闘うことになった。さらに、東芝はWDに対して情報アクセスを遮断し、東芝単独での設備投資に踏み切った。この両社の戦争が行きつく先には何が待っているか?両社が裁判を続ける限り、東芝は東芝メモリを売却できない。その結果、東芝(長)

「東芝メモリを売却しようとしているため、WDは6月14日、「東芝が契約内容を侵害す

る行為をやめさせるために法的措置以外に選択肢がない」という声明とともに、米国カリフォルニア州の上級裁判所に訴訟を提起した。

「東芝メモリを売却しようとしているため、WDは6月14日、「東芝が契約内容を侵害す

る行為をやめさせるために法的措置以外に選択肢がない」という声明とともに、米国カリフォルニア州の上級裁判所に訴訟を提起した。

「東芝メモリを売却しようとしているため、WDは6月14日、「東芝が契約内容を侵害す

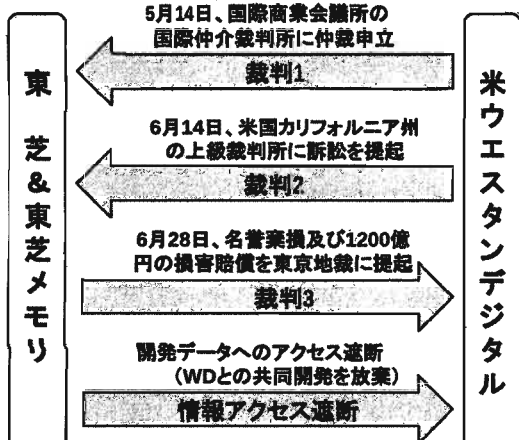


図1 東芝と米ウエスタンデジタルの「戦争」